



墨

すみ



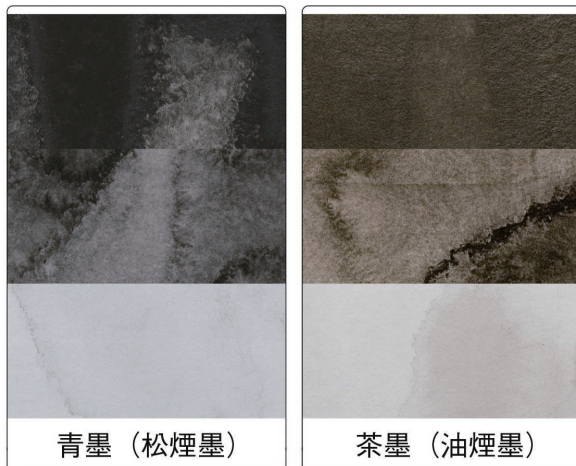
青墨 (松煙墨)

茶墨 (油煙墨)



墨汁

青墨と茶墨の比較



青墨 (松煙墨)

茶墨 (油煙墨)

概要

墨 (すみ) は、油や松を燃やして採取した煤 (すす) を膠 (にかわ) で練り固めて乾燥したもので、水とともに硯 (すずり) ですり下ろした状態のものを色材として用います。「墨に五彩あり」とも言われるように、黒の中にも多彩な色味があります。

墨は古代中国で発達し、推古天皇の時代に高句麗から日本へと伝えられました。日本製の墨を和墨 (わぼく)、中国製の墨を唐墨 (とうぼく) と言います。気候風土の違いから特徴が異なり、和墨は膠が多く滲みにくく、唐墨は膠が少ないため滲みが強く伸びがあります。

墨の原料は、大別すると油煙と松煙があります。油煙墨 (ゆえんぼく) は菜種油、桐油、胡麻油等の植物油の煤で作った墨で、淡墨にすると茶味を帯びているため「茶墨」とも言います。炭素の粒子が非常に小さいので、墨色に艶があり、純度があります。墨が古くなっても色の変化はほとんどありません。松煙墨 (しょうえんぼく) は松の木の煤を固めて作った墨です。青味を帯びているため「青墨 (せいぼく)」とも言います。粒子は粗く、不均一です。墨色は艶がなく、時間の経過により色が青黒化します。ただし現代では、油煙墨に藍の染料を加えた青墨、石油を原料としたものもあり、必ずしも油煙墨が茶墨、松煙墨が青墨とは限りません。他には、煤の代わりに顔料や染料を原料とした「彩墨 (さいぼく)」があります。

墨の製造は膠の腐りにくい冬期に行われます。主成分である煤と膠、香料や染料等を合わせ、手足を使って光沢が出るまで練り上げた後、木型に入れて成型し、短いもので半月から三ヶ月、長いものは数年かけて乾燥させます。最後に表面を蛤で磨いて完成させます。

墨は、粒子をきめ細かくして発色を良くするため、力を入れずにゆっくりすり下ろします。すった墨を硯から絵皿に移して、濃度の調節は濃い墨に水を加えて行います。墨はその日にすり下ろしたものを使用して、乾燥した後の墨は使用しないように注意します。使用後は、墨に付いた水分をきれいに拭き取り、ひび割れやカビを防ぐために購入時に入っていた箱に納めて、気温の変化や湿気の少ない場所で保管しましょう。

あ
か
さ
た
な
は
ま
や
ら
わ
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
U
V
W
X
Y
Z
数字

また、する手間を省くための墨汁（ぼくじゅう）も市販されています。墨汁は膠が少なく防腐剤が入っています。

墨は、日本画や書道を扱う画材店の他に、一般的な画材店でも購入できます。

墨を硯でする



手順1. 雑巾等の上に硯を置きます。硯に水を入れて、硯の岡の部分で墨をすりす。墨は垂直に、力を入れずにゆっくりすりす。



手順2. すった墨は絵皿に移して使います。濃度調節は、濃くすった墨を水で薄めて行います。

墨を指でする



手順1. 墨は指や絵皿ですることもできます。硯でするよりも、きめ細かくすれます。絵皿に水を入れて、濡らした指で墨をこすります。